

# ●一の橋公園

## あざぶきたしんもんぜんちょう 麻布北新門前町

明治2年(1869)、芝築地同朋町代地、芝南新門前一丁目代地を合併して芝新門前町とし、明治5年(1872)に近隣の武家地を合併しました。芝新門前町は古川の両岸にまたがっており、明治11年(1878)、芝区・麻布区が設置された当初は芝区に属していましたが、明治13年(1880)、古川を境に南は芝区、北は麻布区となりました。翌年、町名を麻布区芝北新門前町とし、明治44年(1911)に芝の冠称をとり北新門前町となりました。

## あざぶとりいざかちょう あざぶひがしとりいざかちょう 麻布鳥居坂町・麻布東鳥居坂町

麻布鳥居坂町と麻布東鳥居坂町との間の坂が鳥居坂です。これは氷川神社の二ノ鳥居があったためという説もありますが、江戸時代に鳥居丹波守屋敷があったためと思われる。明治5年(1872)に町名を付けるときに坂名をとりましたが、鳥居氏の屋敷の無いほうが麻布鳥居坂町となり、有ったほうが麻布東鳥居坂町となりました。

## あざぶながさかちょう 麻布永坂町

町の北の方に“長い坂”があるので永坂町と呼ばれるようになりましたが、長坂氏の居住地があったのが由来という説もあります。  
東京の坂道の名で、一番古く記録にあるのは上野の車坂ですが、その次はこの永坂で、明暦3年(1657)の「新添江戸之図」という江戸初期の地図に「なか坂」(昔は濁点を省略した)と書いてあります。

## あざぶしんあみちょう 麻布新網町一丁目・二丁目

江戸時代初期には古川岸の原野で、明暦2年(1656)の江戸図には、まだ人家は描かれていません。延宝年間(1673~1681)には甲府殿すなわち三代将軍家光の子徳川綱重の屋敷(明治以降、一丁目となった部分)と堀留と呼ばれる河岸のあき地(明治以降、二丁目となった部分)となっています。宝永4年(1707)、芝新網町の一部が御用地となったため、麻布本村分明地に代地を与えられ、町名を麻布新網町としました。

また、享保8年(1723)、町の中央より東の堀留までが御用地となり、麻布坂下町表通りに代地を与えられ、宝永4年の代地が麻布新網町一丁目、享保8年の代地が麻布新網町二丁目となりました。麻布新網町二丁目は沼地で場所が悪かったことから、享保17年(1732)、河岸通りにも代地を与えられ、元文3年(1738)、享保8年の代地は麻布網代町と町名を改めました。明治維新後、周辺の武家地や十番馬場、飯倉新町などを合併して町域を広げ、区画の変更により江戸時代の麻布新網町一丁目は二丁目に、二丁目は一丁目に含まれました。

## あざぶまみあなちょう 麻布狸穴町

かつては飯倉村と呼ばれていましたが、江戸時代以降、おいおい町並みとなり飯倉狸穴町というようになりました。狸穴の地名の由来は諸説ありますが、谷あいの土地で古くより木立も繁り、まみ(今日の動物学上ではアナグマとされており、タヌキと混同されたこともあったといえます。)も住んでいそうな場所であったためといわれています。また、荻生徂徠(1666~1728・儒学者)は、採金、すなわち「まぶ」のなまりとし、享保6年(1721)ごろ黄金のような砂がでましたが、まだ年のたらぬ金だといって掘らなかったと言っています(これは黄色の雲母(鉱物の一種)ではないかと想像されています)。この説は独特のものです。

### Azabu'kitashinmonzen-chō

Shibashinmonzen-chō covered the both side area of Furukawa river and in the 13th year of Meiji(1880) its south side area was included in Shiba Ward and its north side area in Azabu Ward. Next year the north side area was named Shiba'kitashinmonzen-chō of Azabu Ward and then renamed Kitashinmonzen-chō with the affix shiba deleted in the 44th year of Meiji.

### Azabu'shin'ami-chō 1-chōme - 2-chōme

In the 4th year of Hōei(1707) an open space of Azabu'honmura-chō became a detached part of Shiba'shin'ami-chō which began to be called Azabu'shin'ami-chō.

### Azabu'toriizaka-chō and Azabu'higashitorizaka-chō

Between the former Toriizaka-chō and the former Higashitorizaka-chō lies Toriizaka slope which was probably so named because the Edo mansion of the lord Torii Tanbanokami was near here. In the 5th year of Meiji (1872) the town was named after the slope.

### Azabu'nagasaka-chō

The town began to be called Nagasaka-chō because a long (nagai) slope (saka) ran in the northern part of the town, but it is sometimes said to have been so called because there was the mansion of the Nagasaka family.

### Azabu'mamiana-chō

The place name Mamiana has its origin in various views one of which says that the place was thickly wooded and that Mami might have inhabited there. Mami is zoologically supposed to be badger but is said to have sometimes been confused with raccoon dog.

昭和20年代の港区地図



現代(平成18年)の港区地図

